

令和 2 年度事業報告書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

（ 概況 ）	 P 1
--------	-----------

（ 事業報告 ）

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と
活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与すること
を目的とした事業

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 （もったいない総研事業）	 P 2
--------------------------------------	-----------

2 産業人材を育成する事業 （北九州地域産業人材育成フォーラム事業） ※別紙 1 参照	 P 3
---	-----------

3 次世代を担う人材を育成する事業 （「北九州の企業人による小学校応援団」事業） ※別紙 2 参照	 P 3
---	-----------

4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 （「1000人の夢寄金」事業）	 P 3
--	-----------

5 まちづくり推進事業	 P 7
-------------	-----------

II 公益目的事業 2

北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業 ※別紙 3 参照	 P 8
------------------------------------	-----------

III 法人運営事業	 P 9
------------	-----------

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、
当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制
および財務基盤の強化を図る。

（ 概 況 ）

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、２度の緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出・移動の自粛、テレワークの推進、イベントの制限など、対面での経済活動や日常生活が大きく制約され、仕事・生活様式が大きく変化した１年でした。

K P E Cの事業につきましても、対面での活動が大きく制限され、中止や延期をせざるを得ない事業もありましたが、I Tを活用したリモートでの説明会、リモート出前授業の開催など、これまでにない新しい試みも開始することができました。

令和２年度のKPEC事業は、新型コロナウイルスの感染防止対策を万全に講じながら、もったいないを未来に引き継ぐ「もったいない総研事業」、産学連携による工学系技術人材の育成を目的とした「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、北九州市の小学校教育の環境支援をする「北九州の企業人による小学校応援団事業」、市民の教育、文化活動の支援を通じて都市格の向上を図る「1000人の夢資金事業」そして、北九州市の産業・技術継承とものづくり人材の育成を目的とする「北九州イノベーションギャラリー指定管理事業」を実施しました。

なお、平成２年の「産業博物館基本構想」の策定から設立準備に至るまで携わり、平成１９年のオープン当初から指定管理を受託し運営してきた、北九州イノベーションギャラリー（以下「KIGS」という。）の指定管理が令和３年３月３１日で終了しました。

KIGSは、令和４年春に新科学館の別館として開館する予定です。

令和２年度の事業報告は以下のとおりです。

(事業報告)

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）

もったいない総研の運営理念「もったいないを未来に引き継ぐ」を踏まえた地域活性化事業の企画、開発及び事業化を実施した。

1) 『北九州紙・エコッパ』の普及のための施策の実施

(1) 『北九州紙・エコッパ』の普及拡大の実施

牛乳パック・古紙を再利用したリサイクルトイレットペーパー『北九州紙・エコッパ』を「北九州エコプレミアム選定商品（令和元年度に選定）」として効果的にPRし、認知向上、普及拡大に取り組み、地域循環サイクルの実現を通じてSDGsを推進した。

販売数については、新型コロナウイルスの影響もあり、残念ながら前年比マイナスとなった。

<エコッパ販売数>（1パック6個入り）

◇令和2年度販売数：150,152 パック（前年比△40,632 パック）

◇累計販売数（平成13年度～令和2年度）：3,677,168 パック

(2) 『北九州紙・エコッパ』による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙・エコッパ』の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施した。

2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の実施

(1) 「旧百三十銀行ギャラリー」の指定管理事業の運営及び地元遺産の認知・保存活動の推進

北九州市の文化財を守る会（以下「守る会」という。）と共同事業体を編成し、北九州市立旧百三十銀行ギャラリーの指定管理運営事業（5年間）を円滑に実施した。本事業を通じて、地元遺産の認知・保存活動の推進および近現代建築物のファシリティマネジメントの在り方とノウハウの研究を行った。

<令和2年度の主催事業>

◇北九州市の戦争遺産パネル写真展（令和2年8月）〔共同事業体主催〕

◇歴史講演会「北九州市の鉄道史について」（令和2年9月）「守る会主催」

◇北九州市の史跡写真パネル展（筑前編）（令和2年12月）〔守る会主催〕

◇「この天の虹」映写会（令和2年12月）〔共同事業体主催〕

◇「焼かないれんがものがたり・鉾津煉瓦・里帰り編」（令和3年1月）〔守る会主催〕

◇マッチ箱に見える街の歴史展（令和3年3月）〔共同事業体主催〕

2. 産業人材を育成する事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

※事業報告の具体的内容は、

「2020年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業報告書」（別紙1）の通り

3. 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校129校を対象に、出前授業、教員研修及びPTA活動促進支援事業を実施した。

※事業報告の具体的内容は、

「2020年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙2）の通り

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

北九州市の都市格（教育力・文化力）を高めることを目的として、市民のみなさまから寄付を募り、市民が行う教育・文化活動へ助成を行う「1000人の夢寄金事業」（以下「夢寄金」という。）を推進した。

1) 「1000人の夢寄金」募金事業

(1) 寄付金寄付募集体制の確立

<令和2年度寄付募集結果>

◇寄付金合計：42,678千円

<寄付金実績推移>

(単位：千円)

年度	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	合計
金額	1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041	2,272	1,973	42,678	57,422

※R02年度は「積木の箱」からの大口寄付金(41,224千円)あり

① 基本寄付（個人会員1口3千円、企業会員1口1万円）募集体制の継続

令和2年度の寄付金募集事業は、事業推進の基盤となる寄付金の拡大を図るために、基本寄付募集事業とプロジェクト寄付募集事業およびその他の寄付募集事業を実施した。

<基本寄付の募集結果>

◇基本寄付件数：144件（前年比 ▲25件）

◇基本寄付金額：1,137千円（前年比 ▲40千円）

② 寄付金受け入れ方法の検討

KPECの寄付金事業と連携した多様な寄付形態（遺贈、香典返し等）に対応できる受け入れ制度の研究と受け入れ態勢の整備を検討した。

③ 寄付金受け入れのための環境整備の実施

i) 預金口座振替による寄付金の受け入れの拡充実施

寄付者の利便性向上と寄付の継続を目的に、口座引落しによる寄付金口座振替の推進と拡充を図った。

<預金口座振替結果>

◇第5回引落日 : 令和2年10月20日(月)

◇引落件数・金額 : 件数 64件・金額 438千円

ii) Web 機能を活用した寄付金受け入れ機能の拡充

「夢寄金」ホームページに寄付申込フォームを設置し、ホームページ上から簡単に寄付申込ができるようにした。

ホームページ、Facebook、メール配信等を利用して、「夢寄金」の活動の情報発信を行い、積極的にPRを実施した。

iii) 寄付者の定着化対策の実施

「夢寄金」の寄付のベースとなる基本寄付の募集について、過去3年間の寄付者へ「寄付のお願い」文書と「事業報告書」を送付し寄付を募集した。

令和2年度の寄付金件数・金額は、新型コロナウイルスの影響もあり、前年比でマイナスとなった。

(2) 寄付金募集のためのプロジェクト寄付事業の企画、運営

プロジェクト寄付事業として「チャリティーゴルフコンペ」を企画・開催した。

例年開催している、ボランティアグループ「シマウマ組」主催のチャリティーバザーは、残念ながら新型コロナウイルスの影響により開催中止となりましたが、「シマウマ組」が手作りで創る小倉織の縫いぐるみが引き続き人気を博しており、「シマウマ組」から縫いぐるみ売上げの寄付をいただいた。

<プロジェクト寄付募集結果>

◇プロジェクト件数 : 2件 (チャリティーゴルフ、縫いぐるみ販売)

◇プロジェクト寄付金合計 : 317千円

① 1000人の夢寄金チャリティーゴルフコンペ企画・開催

「第7回1000人の夢寄金 チャリティーゴルフコンペ」を開催した。

<チャリティーゴルフ開催結果>

◇日 時 : 令和2年11月4日(水)

◇場 所 : 若松ゴルフ倶楽部

◇参加人数 : 54名

◇チャリティー寄付金額 : 162千円

② 1000人の夢寄金チャリティーバザーの企画・開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を中止した。

③ ボランティアグループ『シマウマ組』との連携強化

ボランティアグループ「シマウマ組」から、小倉織の端切れ生地から創りだす縫いぐるみ「^{しましま}縞縞のシマウマ」「^{ときどき}時々ヨコシマなカバ」の売上金の寄付をいただいた。

(参考 : 販売価額 3,900 円/頭 (税抜き) うち寄付 3,000 円/頭)

<縫いぐるみ売り上げ寄付金>

◇縫いぐるみ寄付金 : 155千円

(3) その他の寄付（遺贈・香典返し、特定寄付等）

令和2年度は、特定寄付（あらかじめ用途を指定した寄付）として、北九州青年会議所「積木の箱」および大分製紙（株）から寄付をいただいた。

<特定寄付募集結果>

- ◇特定寄付件数： 2件（積木の箱、大分製紙(株)）
- ◇寄付金額： 41,224千円

① 北九州青年会議所「積木の箱」からの寄付

（一社）北九州青年会議所の公益信託北九州青少年育成基金「積木の箱」から「積木の箱」の事業終了に伴う残余財産を寄付いただいた。

<積木の箱からの寄付金>

- ◇寄付金額： 41,024千円
- ◇寄付金の使途：「夢寄金」の青少年育成分野への助成

② 「北九州紙 えこっパー」の売上金の寄付

「北九州紙 えこっパー」を製造・販売している大分製紙株式会社殿より「えこっパー」の売上の寄付をいただいた。（1パックにつき1円の寄付）

<大分製紙(株)殿からの寄付金>

- ◇寄付金額： 200千円
- ◇寄付金の使途：「夢寄金」の教育・文化分野への助成

2) 「1000人の夢寄金」助成事業

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえて、助成先の募集及び選定を行い、文化と教育分野で活躍する将来性のある5つの事業に対して助成を実施した。

(1) 助成事業の募集

① 助成事業の応募促進対策の実施

令和2年度の助成事業は、7月に一般公募を開始した。

- ◇助成事業の募集：令和2年7月1日～8月31日

② 助成事業の実施状況及び助成効果の確認の実施

対象事業の終了または事業年度終了時に事業完了報告書の提出を義務付け、実施状況及び効果の確認を行った。

③ 助成先事業の紹介

ホームページ、Facebook等で助成先事業を紹介し、「1000人の夢寄金」事業の認知度向上を図ると共に、助成先の新規開拓に繋げた。

(2) 助成先の選定

① 「1000人の夢寄金・審査委員会」の運営

「1000人の夢寄金」審査委員会による審査を経て、第9回助成事業5事業を決定した。審査にあたり、インターネットによるWeb投票を実施し、投票結果を審査の参考とした。

- ◇助成事業の審査：令和2年9月17日（審査委員会）
- ◇選定結果：助成件数5件(応募件数7件) 助成金額合計1,500千円
- ◇助成対象期間：令和2年10月1日～令和3年9月30日

＜令和２年度 第９回 助成先５事業＞

(単位：千円)

事業名	内容	団体	金額
虐待予防プログラム 「“ポジティブ・ディシプリン” ファシリテーター養成講座」	北九州市で養育者が困った時、悩んだ時、一緒に考え合える有効な親育ちプログラム“ポジティブディシプリン”を進行するファシリテーター（進行役）を育成し、市内で活動することを通して、多面的な虐待予防の取り組みと、市民の虐待予防への意識の向上を図る。	NPO 法人 G G P (ジェンダー・地球市民企画) 代表理事 岩丸 明江	500
クラシック音楽と 演劇のコラボレーション公演 「それはモーツァルトだった」	接する機会が少なく、敷居も高く感じられがちな「舞台芸術」を、子供たちが「劇場」で「生の舞台」に触れ、肌で感じてもらうことで、音楽と演劇、芸術の知識を学びつつ、そこに集う企業、地域、行政の存在、そして、その中に存在する自分自身を認知させ、そのつながりを通して自分自身も社会の一員であることを学んでもらうことを目的とした劇場公演。	任意団体 北九州ミュージックシアター みらい 理事長 森岡 謙一	500
全ての子ども達に豊かな自然 とくらしとまなびを届けるプロジ ェクト 「北九州の今を描こう あらわそう伝えよう 2020」	北九州のグリーンフロンティア計画にふさわしい、「子ども主体・住民主体」の「みんなが住みつけたいまち」を子供達の日常において、自然や事柄を丁寧に観察し、子供達自身が表現する活動。 子ども達やその保護者、地域の支援者の皆さん、若手の学生たちともに活動を行う。 1) 地域の自然や緑に触れ合う・四季を通じた自然観察と散策活動とそれに伴う表現活動（主に水彩画、他、様々な形式の制作活動） 2) 子どもの自然の中での群れあそびの機会を作る取り組み(プレイスペース実験実施) 3) 子供達の表現の発表を通じて、北九州市の豊かな自然を再発見する	N P O 法人 あそびとまなび研究所 理事長 秋葉 祐三子	100
生き方のデザイン授業の 新「学習教材」の開発	コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面での「生き方のデザイン授業」授業が難しくなっており、また、教育現場ではオンライン対応が非常に遅れている。このような状況下の中でも、これから「生き方のデザイン授業」を学校に届けるために、オンラインを活用した授業や事前学習のための「新しい学習教材の開発」を行い、継続して授業を行っていく環境を整備する。	一般社団法人 生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子	300
第 22 回 ヤングサンタ ①ヤングサンタ (プレゼント配布イベント) ②チャリティー 吹奏楽コンサート	北青会が 21 年間継続して取り組んでいる事業。 病気と闘っていたり、家庭の事情で家族とクリスマスをお過ごすことのできない子どもたちにクリスマスプレゼントを届けるヤングサンタ(プレゼント配布イベント)とヤングサンタのためのチャリティー吹奏楽コンサートを開催。 これまでに 5,500 名を超える子どもたちにプレゼントを届けてきた。	一般社団法人 北九州青年経営者会議 会長 堤 一	100

<参考：過去の助成実績>

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	合計
助成期間	H25.4 ～ H26.3	H25.10 ～ H26.3	H26.10 ～ H27.9	H27.10 ～ H28.9	H28.10 ～ H29.9	H29.10 ～ H30.9	H30.10 ～ H31.9	R1.10 ～ R2.9	R2.10 ～ R3.9	H25.4 ～ R3.9
応募件数	10	14	10	19	16	10	16	9	7	111
助成件数	4	6	7	7	9	9	9	8	5	64
助成金額 (千円)	1,349	1,900	1,300	1,500	1,500	1,500	2,000	2,000	1,500	14,549

3) 広報・プロモーション事業の実施

① 広報ツールの作成及び広報の実施

i) 「1000人の夢寄金」ホームページ及び facebook の活用

ホームページおよび facebook による「夢寄金」の広報を行うと共に、事業トピックスをタイムリーに掲載・発信した。

ii) メルマガの活用

メルマガを活用し、事業トピックスをタイムリーに発信した。

② Web 投票の試行

申請のあった事業の選定にあたり、一般から広く助成事業に対する意見を求める Web 投票第5回目の試行を実施した。次年度も継続実施の予定。

4) 「1000人の夢寄金」運営委員会の設置

「夢寄金」の組織的・計画的な運営を行うとともに、営業推進体制の強化を図るため、運営委員会を新たに設置した。

委員会メンバーは当面、審査委員が兼任する。

5) 「1000人の夢寄金」規程類の整備

「夢寄金」の設立の趣旨や基本方針、目的および事業、財産および会計、運営組織等、事業運営の基本的な事項について、改めて体系的に整理し、公正で効率的な運営を行うため、規程類を整備した。

<整備した規程>

- ◇「1000人の夢寄金規程」（設立の趣旨、総則、運営組織）【新設】
- ◇「1000人の夢寄金寄付金募集事業運営規程」（寄付金募集運営）【新設】
- ◇「1000人の夢寄金助成事業運営規程」（助成事業運営）【改訂】

5. まちづくり推進事業

北九州地域の活性化のための各種事業の企画、開発及び運営に必要な研究・調査を行うと共に、事業の運営基盤となる産学官民の連携軸の構築等のまちづくり推進事業を実施した。

1) まちの活性化推進事業

(1) 新規事業の企画・開発のための調査・研究の実施

創立30周年を機に、KPECの新しいまちづくり事業を企画・開発するため、北九州市の各分野の代表者に行ったインタビュー結果および政治・社会・経済の実態及び行政の施策の現状分析を行い、今後の方向性を検討した。

(2) 地域づくりネットワークの構築

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局：KPEC)の運営は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、共同プロモーション事業が実施できなかった。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを果たした。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックフロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックフロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し(城水副理事長が企画調整委員会へ参画)、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施の支援を実施した。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進した。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行した。

<KPECニュースの発行>

◇ KPECニュース Vol65 令和2年7月1日発行(発行部数1000部)

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、KPEC事業活動情報をタイムリーに発信した。

II 公益目的事業2：北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

令和2年度は、指定管理最後の年度として、地域において培われてきた産業技術とその心を継承する、イノベーションを促進する環境を整え、次世代の北九州を支えるイノベーターの創出する、などの基本方針を元に、各事業を推進するとともに、官営八幡製鐵所の世界文化遺産登録の紹介とあわせて、当地固有の歴史的風土と、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、企画展の開催や市民セミナー等様々なイベントを意欲的に実施した。

※事業報告の具体的な内容は、

「令和2年度北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業報告書」(別紙3)の通り。

Ⅲ 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図った。

1. 事業運営体制の検討

1) K P E Cの事業運営・管理体制の強化

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓

創設30周年の節目を踏まえて、K P E Cの今後の事業運営体制および産・学・官・民の推進の連携軸となるべき新しいK P E Cの在り方を検討した。現状の主要事業は、ステークホルダーからの信頼も厚く、これらを強化及び活用した新規事業の開発を中心に進めることが地域への貢献度が大きい。

(2) 寄付金事業の事業化

コロナ禍の中で、特定の寄付事業を確立する情勢に至らず、具体化するところまで検討することはできなかった。

2) 事業運営体制の整備促進

事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業（北九州地域産業人材育成フォーラム事業、北九州の企業人による小学校応援団事業等）について、KPECの役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化を含めた検討を行った。

3) 会員募集と会員サービスの向上

(1) 会員募集の強化

『K P E Cパンフレット』および令和元年度発行の『創立30周年記念誌』を活用して、新規会員募集の推進を実施した。

◇令和2年度賛助会員数：**87名**（対前年：▲2名）

◇令和2年度賛助会費額：**2,120千円**（対前年±0千円）

(2) 会員サービスの向上

賛助会員に対して、K P E Cが実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

2. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 理事会の開催

① 定時理事会

第1回：令和2年5月22日（書面決議）

第2回：令和3年3月3日（書面決議）

2) 評議員会の開催

①臨時評議員会

第1回：令和2年4月24日（書面決議）

②定時評議員会

第1回：令和2年6月5日（書面決議）

第2回：令和2年3月15日（書面決議）

3) 執行役員会議の開催（月1回）

- | | |
|------------------|------------------|
| ・第1回：令和2年 4月27日 | ・第2回：令和2年 5月25日 |
| ・第3回：令和2年 6月23日 | ・第4回：令和2年 7月20日 |
| ・第5回：令和2年 8月25日 | ・第6回：令和2年 9月23日 |
| ・第7回：令和2年10月28日 | ・第8回：令和2年11月27日 |
| ・第9回：令和2年12月22日 | ・第10回：令和3年 1月20日 |
| ・第11回：令和3年 2月16日 | ・第12回：令和3年 3月22日 |

北九州地域産業人材育成フォーラム

令和 2 年度事業報告書

I 概 況

令和2年度の北九州地域産業人材育成フォーラムは、コロナ禍の中にあっても、いかに人材育成の流れを止めずに、学生のため、企業のため、何ができるかを模索しながら進める1年であった。

そのような中でも、人材育成に積極的な学校、企業の関係者の皆様が、自ら成長したいと願う学生に対して、場を作り力をお貸しいただきましたおかげで、インターンシップに参加した学生は、視野を広げ、将来の産業人材として自らの目指すべきものをしっかりととらえることができた年でもあったと感じる。さらに、産業成長に積極的に関わろうと、企業と学校の連携もより強固なものになってきたと考える。一部では、コロナ禍の影響を受け見送らざるを得ないプログラムもあったが、新たな取り組みも出てきており、事業をさらに発展させる方向性が見えてきたと考える。

① 高度人材育成プログラム

「地域連携型インターンシップ事業」は「研修型(短期)インターンシップ」、「実践型(長期)インターンシップ」の推進、「産業医科大学（以下産医大）生」を対象にしたインターンシップの事業に加え、北九州市立大学（以下北九大）の1年生インターンシップに取り組み、課題解決をテーマにしたインターンシップも、学生の成長につながる企業からの課題提示や、デジタル化した若者視点による気づきによる企業への提案等、学生、企業双方とも高い満足度が得られる結果となった。

② 社会人育成プログラム

中堅・中小企業の経営・管理者育成を目的として、北九大大学院マネジメント研究科（K2BS）と連携して「採用力強化セミナー」「実践経営車座講座」を実施する予定であったが、コロナ禍で、予定プログラムすべて見送りとなった。

③ 青少年育成プログラム

理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称: かがたま)」の運用を継続し、理工系イベントの紹介を実施した。北九州イノベーションギャラリーとの協働による事業運営の環境づくりを行って来たが、コロナ禍での休館期間もあり、イベント参加者数前年比3割という厳しい結果となったが、情報提供の機会としての重要性は、変わらないと考える。

④ 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

コロナ禍により、対面での情報交換が難しい状況であったため、ホームページの活用を中心に、フォーラム事業の情報を、手軽に入手できるように、提供方法、内容等改革を進めた。

令和2年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの活動結果は、以下の通りである。

Ⅱ. 事業報告の内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である研修型(短期)インターンシップの拡充を図るとともに、実践型(長期)インターンシップの事業化のための環境づくりを実施した。

1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 (継)

大学から職場・社会への円滑な移行の確保のための社会人基礎力の修得と地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施した。

令和2年度 研修型(短期)インターンシップ実績 (継)

	H28年度		H29年度		H30年度		R元年度		R2年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	5	4	5	5	6	5	6	5	6	4
企業(社)	88	53	88	39	83	32	86	39	62	21
学生(人)	103	90	74	65	74	65	85	76	41	36

(※) 学校の実施数に関しては、エントリー学生がいた学校数とした。

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 (新)

フォーラム型インターンシップについては、コロナ対応を考慮し、通常の募集期間を延長し、学生への機会提供に努めた。また、留学生対応にて情報の見出し部分を中心に英文化も図った。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 (継)

『キャリアアップ型インターンシッププログラム』に関しては、関連する取り組みとして、北九大より「未来地域産業インターンシップ」として、長期に向けたキャリアアップ型インターンシップに取り組む大学1年生を対象にした課題解決型インターンシップの受入企業拡充支援を行い、企業への学生の橋渡し、報告会への参加等を実施し、以下の効果が期待できた。

- ・学生の自己の実力把握と学習目的醸成。
- ・企業への人材育成に対する認知向上。
- ・実践型(長期)インターンシップにつながる基礎部分の補強。

<北九大1年生インターンシップ実施実績> ※フォーラム協働企業への参加者のみ

	R2年度
受入企業	7社
参加学生	のべ22名

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の拡充と環境づくり (継)

九州工業大学（以下九工大）を中心に「実践型(長期)インターンシップ」の事業スキームの研究と、大学の実施環境づくりを行うと共に、「イノベーション誘発型」「課題解決型」等の実践型(長期)インターンシップを実施した。コロナの緊急事態宣言により、一部の企業でスケジュール短縮となったが、単位も、無事取得できた内容であった。

<実践型(長期)インターンシップ実績推移>

	H30 年度	R 元年度	R 2 年度
実施企業	6 社	6 社	4 社
参加学生数	7 名	8 名	6 名

令和 2 年度 実践型(長期)インターンシップ実績

企業・組織名	大学：九工大		大学：北九大
	工学部	情報工学部	国際環境工学部
ブラテック	1 名	1 名	
福山コンサルタント		2 名	
リョーワ		1 名	
日建エンジニアリング			1 名
合計 4 社	1 名	4 名	1 名

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声をホームページに掲載し、説明会などで紹介。

② 北九州工業高等専門学校（以下北九州高専）の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援 (継)

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を実施。

<北九州高専長期インターンシップ実施実績> ※フォーラム協働企業への参加者のみ

	R 元年度		R 2 年度	
	専攻科	本 科	専攻科	本 科
参加企業	6	17	3	12
参加学生	8	24	4	18

コロナ禍により、代替授業への参加等で、昨年度より合計 10 名減

2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

(1) 北九州地域企業研究・交流会の企画、開催（継）

学生、大学教員・スタッフ等の関係者の地元企業の認知促進を目的として、インターンシップを実施する北九州地域企業の企業研究・産学交流会を開催予定であったが、コロナ禍の中で中止とした。企業を知ってもらう機会を補完するため、学生の地元企業への興味を引くようホームページへの北九州の中小企業紹介のリンクを設けた。

(2) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充（新）

TOP ページを改修し、フォーラムの大きな3つの基幹事業を認知していただき、その中でインターンシップに関する情報提供を充実した。

- ・インターンシップのページへのアクセス改善。
- ・インターンシップ参加学生インタビュー動画の掲載。（約300ページビュー）
- ・企業紹介動画のリンクページの新設。
- ・インターンシップ対象企業MAP（Google マイマップを利用）新設。（約350ページビュー）

<ホームページアクセス数の変化（「北九州地域産業人材育成フォーラム」TOP ページ実績）>

	R 元年度	R 2 年度
ページビュー数（PV）	12,764	14,187
アクセス集中期間 （100PV/日以上が発生期間）	4/12～7/30	3/13～9/13

- ・アクセス総数、10%以上増
- ・視聴の長期化

<ホームページに関する学生アンケート生データ（サイト利用に関して：原文のまま）>

- ・北九州でのインターンシップを探すにおいて情報がまとめられていたこと
- ・前のインターンシップでも、使いやすくていいサイトや斡旋場所だと思ったから
- ・企業概要や研修内容が分かりやすくまとめられていた
- ・インターンシップの企業概要、研修内容が分かりやすくまとめられていたから

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備（継）

「インターンシップガイダンス」に関してもコロナ禍で、対面が見送られる中、一部 ONLINE で実施。広報チラシなども電子データで、各学校より学生へメール配信いただくなど、各学校の実情に合わせたプロモーションを実施した。

3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

(1) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化 (継)

コロナ禍で、対面活動の制限により、新規開拓そのものが難しい中、コーディネーターも対面による新規開拓ができず、ONLINE での活動強化が今後の課題として挙げられる。

(2) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケートの実施 (継)

「地域連携型インターンシップ」の円滑な運営のために必要な各種アンケート・調査を実施した。

◇地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学:IS 実施学生)

◇地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(IS実施全企業)

◇連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

◇連携大学・高専における地元就職状況調査 (全大学・全学部全学科別)

◇地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査 (全大学・全学部)

<アンケート結果概要 (前年度との比較) >

- ・学生が希望する業種や企業の実務を体験したいと、視野を広げたいという考えが増加している。
- ・学生の実習先の職種に対する興味が増加し、より企業を知ってもらうための情報提供が重要。
- ・コロナの影響もあり、地元企業でのインターンシップ体験への指向が見受けられた。
- ・企業が学生の人材育成をメリットとの考えが向上している。
- ・企業の学生評価は、学習意欲、目的意識、専門能力の高さ、が大きく向上している。

2. 社会人育成プログラム事業の支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九大大学院マネジメント研究科（以下「K2BS」）と連携した、経営者・管理者育成のための事業の支援を行う予定であったが、コロナ禍の影響を大きく受けることとなった。

1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたプログラムの支援

K2BS と連携して、K2BS の環境を活用した地域企業の経営者・管理者育成のためのプログラムの支援を行う予定であったが、中止となった。

(1) 中堅・中小企業向け「採用力強化セミナー」の開催・支援(継)

中堅・中小企業の経営者、総務・人事担当者の採用力を強化するために、K2BS と連携して「採用力強化セミナー」を開催する。このセミナーを契機に北九州大学ビジネススクール（MBA）受講による経営者・管理者育成の有用性を PR するよう下記のように計画していたが、中止となった。

《予定していた採用力強化セミナー概要》

- ・講座形式：K2BS 教員によるセミナー(座学方式)

現役学生も参加し、社会人メンバーと混成チームを作り実践的な採用・面接を考える。

- ・開催時期：令和2年8月～12月(予定)

- ・開催場所：北九大サテライトオフィス（予定）

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援 (継)

K2BS がとりまとめた地域企業のレポート（新事業創造や事業承継等の事例）を教材として、中小企業経営・管理者を対象にした「実践経営学講座・車座塾」を開催する予定であったが、中止となった。

《予定していた実践経営学講座・車座塾の概要》

- ・テーマ：「新事業創造」「事業承継」「人材マネジメント」「経営理念」等

- ・内 容：最大 15～20 名程度の少人数で、ディスカッション方式で実施

- ・開催数：6～10 ケースを厳選し開催

2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施した。

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進 (継)

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進 (継)

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進のため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

<学術コンサルティング制度活用状況>

※令和2年度は令和3年1月末時点

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
活用実績(全体)	19件	31件	36件	40件
(内、市内企業)	(5件)	(4件)	(7件)	(12件)

<令和2年度の特徴(前年度の違いや企業様の反応)>

- ・企業様も手軽に申し込めることで、年々契約件数も増加している。
- ・契約金額も、100万円を超えるものが10件以上あり、少し大型化への傾向がみられる。
- ・北九州市内の企業様との契約件数も順調に増加しているが、同一企業様で8件の申込があったのが増加した要因となっている。

3. 青少年育成プログラム事業の企画・運営 (継)

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”による情報紹介および「北九州ノベーションギャラリー」「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものであり教育の環境づくりを行った。

1) 北九州地域科学・工学教育情報マップ“かがたま”の運営・管理 (継)

平成30年度に開設した理工系イベント紹介ウェブサイト「北九州かがくの玉手箱(愛称:“かがたま”)」の小中学校等教育機関をはじめ、地域や市民の活用促進のための環境づくりを実施した。

(連携教育機関・施設)

九工大・北九大・西日本工業大学・北九州高専・北九州市

立児童文化科学館・北九州市立いのちの旅博物館・北九州市環境ミュージアム・北九州

イノベーションギャラリー・TOTOミュージアム・安川電機みらい館

<令和2年度“かがたま”WEBサイト訪問(ページビュー)件数(前年比約1.5倍)>

月度	04月	05月	06月	07月	08月	09月	10月	11月	12月	01月	02月	03月
件数	4,357	4,219	1,783	4,179	2,260	2,298	10,003	4,576	2,697	2,888	1,839	1,873

2)「北九州イノベーションギャラリー」と連携した事業の企画、開発、モデル化（継）

「北九州イノベーションギャラリー」と連携して青少年向けのものづくり教育プログラムの企画、開発、試行を行い、ものづくり教育としてのモデル化を進めることとしていたが、コロナ禍で、北九州イノベーションギャラリーの施設利用制限などがあり、例年に比べ大幅に実施ができない結果となった。また、次年度以降は休館及びその後の運営内容が異なるため、新たな開発も検討が必要となる。

<北九州イノベーションギャラリーで実施した青少年向けのものづくり教育プログラム>

- ① ものづくりセミナー（中学生対象）
- ② ジュニア向け工作教室（小学生対象）
- ③ 企画展連動ワークショップ（小学生対象）
- ④ デジタルものづくり教室（小学生対象）

3)「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり（継）

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

<出前講座例>

- ・安全教室(地球に優しいアロマキャンドルを作ろう) ・ガス管万華鏡作り(冷却実験付)
- ・木のからくりおもちゃで遊んで学ぼう ・インターネットを使った情報の集め方と情報の正しさ等

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進した。

1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進（継）

フォーラム協働企業(事業実施企業 160 社)をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の登録を促進したが、コロナ禍で積極的な企業がなかった。

◇新規登録企業数： 0 社（令和2年度フォーラム有志会員企業数：46社）

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施（継）

フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」（産学交流会等）の開催を検討したが、コロナ禍で実地できなかった。その補完も含めて、連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行った。

以上

令和2年度 産業人材育成フォーラム 決算

(単位:円)

	項 目	令和2年度予算額	令和2年度決算額	決算の増減	内 訳
収 入	1)負担金	8,000,000	8,000,000	0	
	①北九州市	7,000,000	7,000,000	0	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	2)会費	3,015,000	2,560,000	▲ 455,000	
	①企業会員	1,530,000	1,260,000	▲ 270,000	企業負担金@30,000×42社
	②大学・高専	1,300,000	1,300,000	0	大学等会費@300,000×4校 @100,000×1校
	③交流会	185,000	0	▲ 185,000	
	3)雑収入	1,810,000	50	▲ 1,809,950	
	①出展料等	1,750,000	0	▲ 1,750,000	
	②企業見学バスツアー補助	60,000	0	▲ 60,000	
	③預金利息		50	50	
	4)前年度繰越金	500,000	565,568	65,568	
	【収入合計】	13,325,000	11,125,618	▲ 2,199,382	

	項 目	令和2年度予算額	令和2年度決算額	決算の増減	内 訳
支 出	1)人件費	300,000	0	▲ 300,000	
	①事業担当人件費	0	0	0	
	②臨時的雇用人件費	300,000	0	▲ 300,000	
	2)謝金	46,000	0	▲ 46,000	
	①専門家謝金	46,000	0	▲ 46,000	
	3)旅費	250,000	95,734	▲ 154,266	
	①旅費等	250,000	95,734	▲ 154,266	近距離旅費 等
	②専門家招聘旅費	0	0	0	
	4)委託料	10,494,000	8,822,849	▲ 1,671,151	
	①KTS業務委託	3,024,000	3,080,000	56,000	KTS 業務委託料一式
	②KPEC業務委託	4,670,000	4,670,000	0	KPEC 管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	2,800,000	1,072,849	▲ 1,727,151	HP改修 等
	5)その他経費	2,235,000	1,677,106	▲ 557,894	
	①会場借上げ料	250,000	0	▲ 250,000	
	②印刷費	300,000	180,730	▲ 119,270	インターンシップパンフレット 等
	③通信運搬費	35,000	47,072	12,072	リーフレット送付・電話代 等
	④事務消耗品費	120,000	839,909	719,909	事務用消耗品費、DX対応品費 等
	⑤会議費	280,000	41,572	▲ 238,428	会議時飲み物代 等
	⑥交流会費	150,000	0	▲ 150,000	
	⑦使用料及び賃借料	550,000	545,393	▲ 4,607	事務局関係諸費
	⑧雑費	550,000	22,430	▲ 527,570	振込手数料 等
	【支出合計】	13,325,000	10,595,689	▲ 2,729,311	
	次年度繰越金	0	529,929	529,929	

北九州の企業人による小学校応援団
令和 2 年度 事業報告書

I 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プロジェクトを実施した。

支援対象は、市内の全市立小学校129校で、出前授業の利用は申し込みが32校、実施回数は71回（R1年度：69校、235回）であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校は6月中旬まで休校、または分散登校であった。以降も授業時間数の不足や感染症対策の観点から、出前授業の申込数自体が減少した中、申し込み後も、感染拡大により学校からのキャンセルなどが相次いだ。

こうした中、企業の協力を得てリモート授業を試験的に実施したり、オリジナル教材や動画を開発して小学校に配布するなど、各学校のニーズに対応する形で本事業を遂行した。

さらに、今年度はコロナの影響で年間の計画が立てづらいという小学校からの声に対応するため、出前授業のWEB申込締め切りを通常の8月末から12月末に延長した。

1. 親学推進プロジェクト

PTAへの父親参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続実施した。

1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

校長会・PTA協議会・小学校応援団の連盟で小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の案内を配布し、参加促進を図った。

2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）について環境の変化の調査を行い実施計画を検討した。

2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行った。

1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。

今年度は新型コロナウイルスの影響で出前授業の実施が難しい中、ヤフー（株）、シャボン玉石けん（株）の協力を得て4件のリモート授業を実施した。また陸上自衛隊小倉駐屯地は、オリジナル動画を作成し提供する形での出前授業を3件実施した。この他、（一社）科学舎アカデミーの協力を得て天文学習のオリジナル教材を開発し、全小学校への配布を行った。

<実績数>

	令和元年度	令和2年度
支援対象校	129校	<u>129校</u>
参加協力企業	460社	<u>465社</u>
申込学校数	69校	<u>32校</u>
実施件数	235件	<u>71件</u>

2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

(1) 利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、利用校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に利用校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底した。

(2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行った。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校にとって安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込んだ。

また、北九州市教育委員会の協力を得て、小学校のスタンダードカリキュラムと出前授業との関連付けをガイドブックに記載し、教員が出前授業を選択しやすい環境を整備した。

3) テーマの拡充に対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図った。

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
新規テーマ数	30件	19件	15件
申込校数	88校	69校	32校

(1) 小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

2018年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図った。

(2) 新学習指導要領へ対応したテーマ設定

2020年度から新学習指導要領がスタートしたことで、小学校のニーズはより多様化した。小学校に対しニーズ調査を行い、ニーズが多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努めた。

	令和元年度	令和2年度
新規講師登録	5企業	4企業

3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、これまでも支援を行っているが、更に個々の小学校の要請に対応した環境調整と支援事業のための検討を行った。

4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図った。

1) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要である。今年度も小学校長との意見交換会を開催すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を鑑みて、開催を見合わせた。

5. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施した。

1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

例年、4月にコーディネーターが小学校を訪問し、教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を行い事業の周知を図っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みて、電話を中心に担当小学校への周知、広報活動に努めた。

2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図った。

7月には北九州活性化協議会の会員企業や行政機関、報道機関等461団体に小学校応援団のパンフレットを送付して広報を行い、数社から参加申込、講師登録があった。

3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図った。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供した。

Ⅱ 支援体制の充実

1. コーディネーターの組織体制の強化

小学校応援団事業の実施については小学校をサポートし、事務局と学校を繋ぐコーディネーターは必須機能である。しかしながら、コーディネーターの高齢化が進んでいる。継続的なコーディネーターの確保を目指し、調整を行った結果、八幡東区教育賛助会の協力を得て、新規コーディネーターの確保と育成を図った。

2. 参加協力企業等の拡大

全校（129校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行い、現在465企業団体が参加している。

3. 実行委員会の設置検討

小学校からの多様なニーズに対応するために、詳細な企画やそれらを実行に移していく組織となる実行委員会の設置検討を行った。

Ⅲ 三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を8月20日に開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図った。

北九州の企業人による小学校応援団 令和2年度収支決算

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

【収入】

単位：円

項目	予算額	実績額	説明
負担金	7,500,000	7,500,000	＜負担金拠出額＞ 北九州市 5,500,000 北九州活性化協議会 2,000,000
利息		32	
計	7,500,000	7,500,032	

【支出】

単位：円

項目	予算額	実績額	説明
支援事業費	857,000	649,620	講師謝金と 出前授業ガイドブック
コーディネーター業務費	853,000	712,750	費用弁償等
広報・プロモーション推進費	738,000	1,100,216	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの充実等
人件費	4,100,000	4,100,000	事務局人件費
事務局経費	952,000	937,446	通信運搬費、交通費、消耗品費、事務室等使用経費等
計	7,500,000	7,500,032	

北九州イノベーションギャラリー

指定管理者事業

令和 2 年度事業報告

I. 事業概要

北九州イノベーションギャラリー(以下「K I G S」)の施設管理・運営については、公益財団法人北九州活性化協議会(以下「K P E C」)が第三期指定管理者として、平成27年4月から単独にて6年間の施設管理・運営を受託。その6年目となる令和2年度については、下記の基本方針のもと各種事業を精力的に展開すると共に、官営八幡製鐵所の世界文化遺産登録の紹介とあわせて、当地固有の歴史的風土と、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、企画展の開催や市民セミナー等様々なイベントを意欲的に実施した。

◆地域において培われた産業技術とその心を継承する。

日本が先進工業国へと成長する過程で、北九州は数多くの技術革新を経験し、技術・技能やこれらを支える経営・管理ノウハウなど膨大な知見を蓄積してきた。これらの財産を可能な限り調査し、保存・継承に努める。また、世界遺産を始めとする産業遺産の展示等を通して日本の近代化を支えたまち「北九州」への誇りともものづくりへの興味につなげる。

◆イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。

優秀な技術者、熟練技能者、デザイナーおよび大学の研究者などと連携し、技術動向やデザインなどの情報を提供するとともに、産学官の技術交流の場を提供することで、産業技術に対して幅広い視野を有し、知識融合等によるイノベーションを推進しうる人材の養成に取り組む。また、社会人再教育として、実践に必要な幅広い基礎知識の強化に取り組む。

◆次世代イノベーターを育成する。

産業技術や基礎科学の重要性について、青少年の理解を高め、技術やデザインへの探究心を育む。

◆技術者OB・OGの経験を活かす。

北九州市には、技術革新に関わった技術者が多く在住している。彼らの経験を活用し、技術の知と心の継承を行う。

◆多様なネットワークを構築する。

地域の企業および大学等高等教育機関のみならず、内外の博物館や研究機関と連携することで、高度な専門性を確保しつつ、サービスの内容や質の向上を図る。

◆固有の価値・魅力を発信する。

「イノベーションをテーマにした国内唯一の施設」としての当施設の独自性、魅力を高め、それを内外に発信していく。

【主な活動概況】

1 教育普及事業

主要講座である技術革新セミナー(年1回)は、若手技術者等新たな顧客層を開拓するため、時代の流れに即したものをテーマに設定し著名な講師を招いて開催した。また、これらの企画にあたっては、国内最先端技術を有する企業の協力やクリエイターにも参画頂き、最先端のイノベーションに関する情報を提供し、その結果一歩踏み込んだ理解と意識改革の醸成をすることが出来た。

世界遺産登録関係では、世界遺産登録にともなう旅行会社の旅行プランへの組み入れ提案などの積極的な働き掛けを継続して行った。

技術革新セミナーでは、本年度はモバイル通信の最新技術である 5G 通信に関するテーマを取り上げ、「5G 通信のインパクト ～生活、社会はどう変わるのか～」というテーマで開催し、新型コロナウイルス感染症対策実施中の中 75 名の参加者を得た。

本年度も KIGS デジタル工房では、企画展連動ミニ体験においてもデジタル工房で製作した部材を利用したワークショップを積極的に実施し、各種プログラムを推進した。

ものづくり教室やものづくりミニ体験も新型コロナウイルス感染諸対策を実施し、細心の注意を払って開催した。

2 展示事業

新型コロナウイルス感染症対策により臨時休館となったため、春は開催を中止した。夏には、本来春に開催予定であった「「おしゃれ べんり！！キッチングッズ展 ～料理を楽しむ イノベーション～」を開催した。秋には、東田ミュージアムパーク創造事業連携展が中止となったので、当館独自で開館第 1 回企画展テーマに立ち戻り「遊びイノベーション前編 親子で楽しいファンタジー工場展」を開催した。冬には、最期の企画展として「遊びイノベーション後編 大人も楽しい♪昭和あそびの祭典」を開催した。

3 調査研究事業

国立科学博物館との共同研究においては、「フロッピーディスク及び駆動技術の系統化調査」を実施した。

4 図書・映像の収集及び公開、産業映像の制作

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図っている他、新着本のホームページでの公開やメールマガジンで紹介するなどライブラリーの利用促進を継続している。さらに、ライブラリー入口にはイベントに合わせて来館者の興味を引く図書を配架している。また、産業映像の収集について、市販映像 1 作品を購入した。

産業映像の公開は、10 月に開催した KIGS 市民セミナーで令和元年度に制作した「わたしの北九州」（約 31 分）を公開した。

5 貸出スペースの稼働アップや芝生広場の有効利用

“開かれた館”を目指し、多目的で有効なスペース提供を通じ、利用者のサービス向上に努めた。プレゼンテーションスタジオおよび工房利用については、地道に利用者層の拡大を図った。

「世界一行きたい科学広場」や「KIGS 春のわくわくワークショップまつり」の体験型集客イベントは実施することができなかった。

デジタル工房では、安価に材料等が準備できるため、本年度も KIGS オリジナルの内容でのものづくり教室やワークショップを可能な限り開催した。1 月以降は、ストックしていた各種材料を使って無料で提供を行い、来館者に喜んでいただいた。

【成果】

上記の積極的事業展開、活発な広報・集客活動に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症対策により臨時休館や各種制限が必要になった、数値目標を達成できなかった。

◆計画数値目標の達成状況

入館者数	計画 68,000名	実績 29,325名	(計画比43.1%)
企画展観覧者数	計画 26,000名	実績 9,841名	(計画比37.9%)
教育プログラム参加者数	計画 14,000名	実績 8,065名	(計画比57.6%)

II. 教育普及事業

教育普及プログラムへの参加者数は目標 14,000 人に対して実績が 8,065 人(目標達成率 57.6%)と、大幅未達となった。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 4 月、5 月、6 月に延べ 60 日間、臨時休館したことや、開館して以降も感染防止対策のため、「世界一行きたい科学広場」「東田サマースクール」「東田たたらプロジェクト」などの大型イベント、アウトリーチ活動の中止、講演会、ものづくりワークショップ等のイベント参加人数の制限、そして多くの団体客のキャンセル等が大幅な減少要因である。また、小中学校の夏休み期間の 8 月 8 日～21 日の間、空調故障のため臨時休館し、子供向けのイベントを中止したことも大きく影響している。このような来館が見込めないコロナ禍休館中の前向きな活動として、子供たちが家で作ったり、実験できるように、スタッフが考案した動く工作物や実験の動画と説明画像を SNS に 1 日 1 件を目標にアップし、多くのフォロワーに利用していただいた。また、準備に長い時間を要するデジタルものづくり教室「ゼネバ機構 コインが消える貯金箱」、本革を使った本物志向の「ペンケース、眼鏡ケース」、LED を使った「光るキーホルダー」等、知恵と工夫を凝らしたKIGSオリジナルのプログラムを積極的に開催した。

1 講座、セミナー、技能講習など

(1)技術革新セミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
10 月 31 日 13:00～14:30	「5G通信のインパクト ～生活、社会はどう変わるのか～」	藤井 輝也／東京工業大学特任教授、 ソフトバンク(株)フェロー兼任	75 名

計 75 名

(2)KIGS市民セミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
10 月 3 日 13:00～15:00	映像上映「わたしの北九州」 調査研究報告会「北九州における近現代建築の 地域資源としての見える化」	佐久間 治／九州工業大学教授	71 名
10 月 24 日 13:00～15:10	「世界的気象学者・藤田哲也博士生誕100周年 記念講演会」	金氏 顕／藤田哲也博士記念会会長 横山 辰夫／元・福岡管区気象台長	84 名
12 月 12 日 13:00～14:00	「実録！特殊電車がでるまで」	磯邊 謙一／株式会社九州艦装 代表取締役	53 名

計 208 名

(3)ものづくりセミナー

開催日時	内 容	講 師	参加人数
7 月 21 日 10:00～15:00	出前講座(福岡教育大学附属福岡中学校) 「もののけ姫の世界を鉄にこだわり科学する」	櫻木 準一／元新日本製鐵株式会社 八幡製鉄所製鉄部	124 名
11 月 27 日 10:00～12:00	出前講座(穴生学舎) 現代の産業とものづくり「先人に学ぶプロフェッショナル」	鹿毛 浩之／北九州イノベーションギャ ラリー前館長	28 名

計 152 名

(4)調査研究報告会

開催日時	内 容	講 師	参加人数
7 月 18 日 13:00～14:30	「北九州における水ビジネス海外展開の歴史と発展」	田口博崇／北九州市上下水道局海外事業課 赤木純子／公益財団法人 地球環境戦略研究機関	46 名
9 月 19 日 13:00～15:00	「北九州におけるリサイクル技術の歴史と発展」	大矢 仁史／北九州市立大学教授 垣迫 裕俊／九州産業大学教授 日本磁力選鉱株式会社、株式会社アステック入江、光和精鉱株式会社、株式会社新菱、吉川工業株式会社、日鉄高炉セメント株式会社	58 名
11 月 21 日 13:00～15:00	自動車用ベアリング技術の系統化調査」	室谷 周良／国立科学博物館 産業技術史資料センター主任調査員	59 名

計 163 名

(5)共催イベント(ワークショップ)

開催日	内 容	共催団体名	参加人数
7月より毎月 1 回土曜 /計 7 回	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部 CPD	205 名

計 205 名

2 各種ワークショップ、イベント

(1)KIGS(研究)倶楽部

開催月	回数	内容	講師	参加人数
6 月～翌年 3 月	第 1・3・5 土 曜日計 17 回	「帆船模型倶楽部セーリングシップ」 一般社会人による、正確縮小帆船模型の製作活動	会員活動	371 名

計 371 名

(2)ジュニア向け工作教室

開催日	内 容	講師	参加人数
8 月 6 日 10:00～12:00 14:00～16:00	夏休みミニ体験「タイムカプセル缶・貯金缶作り」 参加費:無料 *小学生親子	KIGS スタッフ	9 名
8 月 23 日 14:00～16:00	夏休みミニ体験「タイムカプセル缶・貯金缶作り」 参加費:無料 *小学生親子	KIGS スタッフ	31 名
12 月 6 日 10:00～12:00 14:00～16:00	夏休みミニ体験「タイムカプセル缶・貯金缶作り」 参加費:無料 *小学生以下親子	KIGS スタッフ	118 名

計 158 名

(3)企画展連動イベント・ワークショップ

①夏企画展 「おしゃれ・べんり！キッチングッズ展」

開催日	内 容	講師	参加人数
8 月 8 日 10:30～11:20 13:00～13:50 14:30～15:20	「無添加粉石けんで作る 手作り石けん教室」 参加費:無料 *小学生親子	シャボン玉石けん株式会社	50 名
9 月 6 日 10:00～15:00	「マロンのカラーマジッククッキング」 1回30分の映像レポート上映 参加費:無料	マロン／フードスタイリスト	4 名
9 月 11 日 13:30～14:00 15:00～15:30	「BRUNO アンバサダー実演」 参加費:無料	久保ゆりか／野菜ソムリエ上級プロ・フードコーディネーター	25 名

計 79 名

②秋企画展「親子で楽しい ファンタジー工場展」

開催日	内 容	講師	参加人数
11月15日 11:00～11:50 13:00～13:50	影絵劇場「星空のこんぺいとう」 参加費:無料	有吉正信、他	105名
12月13日 11:00～11:40 13:00～13:40	影絵劇場「森のおくりもの」 参加費:無料	有吉正信、他	87名

計 192名

(4)デジタルものづくり教室

開催日	内 容	講師	参加人数
7月12日 、19日 10:00、11:00 14:00、15:00	3Dプリンターミニ体験 「くるくる回るキーホルダーを作ろう！」 参加費 100 円 ＊小学生4年生以上～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	3名
7月14日 、15日 13:00、14:00	「レーザー彫刻でオリジナル本革マスクバンド作り」 参加費 300 円 ＊幼児～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	8名
7月21日 、22日 13:00、14:00	「レーザー彫刻でオリジナル本革マスクバンド作り」 参加費 300 円 ＊幼児～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	8名
7月28日 、29日 13:00、14:00	「レーザー彫刻でオリジナル本革マスクバンド作り」 参加費 300 円 ＊幼児～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	7名
7月24日 9:30～12:00 14:00～16:30	電子工作入門「オリジナルキーホルダーを光らせよう」 参加費 500 円 ＊小学生4年生～6年生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	17名
7月26日 9:30～12:00 14:00～16:30	電子工作入門「オリジナルキーホルダーを光らせよう」 参加費 500 円 ＊小学生4年生～6年生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	13名
8月2日 10:00、11:00 14:00、15:00	3Dプリンターミニ体験 「くるくる回るキーホルダーを作ろう！」 参加費 100 円 ＊小学生4年生以上～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	1名
8月5日 10:00、11:00 14:00、15:00	3Dプリンターミニ体験 「くるくる回るキーホルダーを作ろう！」 参加費 100 円 ＊小学生4年生以上～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	4名
8月23日 10:00、11:00 14:00、15:00	3Dプリンターミニ体験 「くるくる回るキーホルダーを作ろう！」 参加費 100 円 ＊小学生4年生以上～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	4名
8月9日 ～12日 10:00～12:00 14:00～16:00	「ゼネバ機構 コインが消える貯金箱」 参加費 300 円 ＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	93名
8月30日 11:00、13:00 14:00、15:00	レーザーカッターミニ体験「おなまえ&イラスト彫刻マイ箸置きを作ろう」 参加費 300 円 ＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	20名
9月13日 10:00、11:40 14:00、15:40	「かんたん電気回路でメッセージカードを光らせよう」 参加費 100 円 ＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	12名
9月20日 10:00、11:40 14:00、15:40	「かんたん電気回路でメッセージカードを光らせよう」 参加費 100 円 ＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	5名
9月21日 10:00～12:00 14:00～16:00	「レーザー彫刻スタンプでおしゃれなポストカード作り」 参加費 800 円 ＊中学生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	10名
9月22日 10:00～12:00 14:00～16:00	「レーザー彫刻スタンプでおしゃれなポストカード作り」 参加費 800 円 ＊中学生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	7名
10月4日 10:00～11:30 12:30～14:00 15:00～16:30	「ハッピーハロウィン モンスター貯金箱を作ろう！」 参加費 200 円 ＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	44名
10月11日 10:00～12:00 14:00～16:00	「オリジナルボードゲームを作ろう！」 参加費 600 円 ＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	15名
10月18日 10:00～12:00 14:00～16:00	「オリジナルボードゲームを作ろう！」 参加費 600 円 ＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	15名

11月1日 9:30～12:00 13:30～16:00	「レーザーカッター加工と手縫いで仕上げる本革ペン・メガネケース」 参加費 1500 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	8 名
11月3日 9:30～12:00 13:30～16:00	「レーザーカッター加工と手縫いで仕上げる本革ペン・メガネケース」 参加費 1500 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	13 名
11月8日 10:00～12:00 14:00～16:00	「オリジナルボードゲームを作ろう！」 参加費 600 円＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	16 名
11月10日～ 12月4日 9:00～16:30 (18日開催)	「カラフル星形クリップ」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	594 名
11月22日 11:00、13:00 15:00	「パーツを選んで自分だけのクリスマスリースを作ろう！」 参加費 300 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	25 名
11月23日 10:00～12:00 14:00～16:00	「はらはらビー玉迷路を作ろう！」 参加費 300 円＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	29 名
11月23日 9:30～12:00 13:30～16:00	「レーザーカッター加工と手縫いで仕上げる本革ペン・メガネケース」 参加費 1500 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	10 名
11月29日 10:00、11:00 13:00、15:00	「パーツを選んで自分だけのクリスマスリースを作ろう！」 参加費 300 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	30 名
12月6日 10:00、11:00 13:00、15:00	「パーツを選んで自分だけのクリスマスリースを作ろう！」 参加費 300 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	32 名
12月17日～ 12月26日 9:00～16:30 (8日開催)	「しおりを作ろう！」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	57 名
12月19日 10:00、10:45 11:30、13:30 14:15、15:00	「アクリル染色体験クリスマスキーホルダーを作ろう」 参加費 200 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	14 名
12月27日 9:00～16:30	「シャカシャカフレックキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	57 名
1月5日～ 1月31日 9:00～16:30 (21日開催)	「しおりを作ろう！」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	317 名
1月10日、 11日 10:00、11:00 13:00、14:00 15:00	「カラーアクリルでイニシャルキーホルダーを作ろう」 参加費 50 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	65 名
1月11日 9:00～16:30	「シャカシャカフレックキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	117 名
1月17日 10:00～11:30 12:30～14:00 15:00～16:30	「カム機構 首振りロボットを作ろう！」 参加費 100 円＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	41 名
1月24日 10:00～11:30 12:30～14:00 15:00～16:30	「カム機構 首振りロボットを作ろう！」 参加費 100 円＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	42 名
1月30日 10:00～11:30	「オリジナルハートシェーカーを作ろう」 参加費 300 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	4 名
1月31日 10:00～11:30 13:00～14:30 15:00～16:30	「オリジナルハートシェーカーを作ろう」 参加費 300 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	16 名
2月6日 10:00～11:30	「オリジナルハートシェーカーを作ろう」 参加費 300 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	2 名
2月7日 10:00～11:30 13:00～14:30 15:00～16:30	「オリジナルハートシェーカーを作ろう」 参加費 300 円＊小学5年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	12 名
2月11日 9:00～16:30	「星座のタッセルキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	171 名

2月14日 10:00、11:00 13:00、14:00 15:00	「カラーアクリルでイニシャルキーホルダーを作ろう」 参加費 50 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	25 名
2月20日 10:00～12:00	「ゼネバ機構 コインが消える貯金箱」 参加費 300 円＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	13 名
2月21日 10:00、11:00 13:00、14:00 15:00	「カラーアクリルでイニシャルキーホルダーを作ろう」 参加費 50 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	28 名
2月21日 9:00～16:30	「シャカシャカフレークキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	171 名
2月23日 10:00、11:00 13:00、14:00 15:00	「手描きイラストのはしおき&名前入りはしおきを作ろう」 参加費 300 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	11 名
2月23日 9:00～16:30	「星座のポンポンキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	89 名
2月25日 、26日 9:00～16:30	「シャカシャカフレークキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	13 名
2月27日 10:00～12:00	「かわいいアクリルでアクセサリを作ろう」 参加費 500 円＊小学3年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	7 名
2月28日 10:00～12:00 14:00～16:00	「かわいいアクリルでアクセサリを作ろう」 参加費 500 円＊小学3年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	18 名
3月4日～ 3月12日 9:00～16:30 (6日開催)	「シャカシャカフレークキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	21 名
3月6日 10:00～12:00	「レーザーカッターで彫刻 マイイラスト壁掛け時計作り」 参加費 1500 円＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	12 名
3月7日 10:00、11:00 13:00、14:00 15:00	「手描きイラストのはしおき&名前入りはしおきを作ろう」 参加費 300 円＊小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	19 名
3月7日～ 3月17日 9:00～16:30 (9日開催)	「星座のポンポンキーホルダー」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	202 名
3月9日～ 3月23日 9:00～16:30 (9日開催)	「組み合わせて作ろう！木のしおり」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	134 名
3月13日 10:00、11:00 12:00	「どうぶつペンスタンド作り」 参加費無料 ＊小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	31 名
3月14日 9:30～12:00 13:30～16:00	「LEDライトが光るキーホルダーを作ろう」 参加費 500 円＊小学3年生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	12 名
3月20日 、21日 10:00～16:30	「ポーズを決めろ！マイシルエットオブジェを作ろう」 参加費無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	43 名

計 2,807 名

3 個人、団体向け教育プログラム

(1)個人向けプログラム

①ものづくりミニ体験

開催月	回数	内容	参加人数
7 月	12 回	「タイルで My コースターを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100 円	103 名
8 月	8 回	「タイルで My コースターを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100 円	92 名
9 月	26 回	「タイルで My コースターを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100 円	153 名
10 月	4 回	「タイルで My コースターを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100 円	38 名
	7 回	「ホバークラフトを作ろう」 ※秋企画展連動 参加費:100 円	117 名
11 月	11 回	「ホバークラフトを作ろう」 ※秋企画展連動 参加費:100 円	223 名
12 月	8 回	「ホバークラフトを作ろう」 ※秋企画展連動 参加費:100 円	73 名
1 月	9 回	「光ってお知らせ！電流チェッカーを作ろう」 参加費:無料	108 名
2 月	7 回	「光ってお知らせ！電流チェッカーを作ろう」 参加費:無料	122 名
	6 回	「タイルで My コースターを作ろう」 参加費:無料	122 名
	3 回	「ホバークラフトを作ろう」 参加費:無料	54 名
3 月	6 回	「タイルで My コースターを作ろう」 参加費:無料	43 名
	6 回	「ホバークラフトを作ろう」 参加費:無料	103 名
	13 回	「カラフルぶどうのキーホルダー」 参加費:無料	198 名

計 126 回 1,549 名

②デジタル工房 見学会

開催月	回数	内容	参加人数
8 月	1 回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	4 名
9 月	2 回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	3 名

計 3 回 7 名

③デジタル工房 機材利用講習会

開催月	内容	3Dプリンター	レーザーカッター
8 月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	4 名	2 名
9 月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	2 名	1 名

3D プリンター 計 6 名

レーザーカッター 計 3 名

(2)企業団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
11 月	山九株式会社プラント事業部能力開発グループ	1 団体	16 名

計 1 団体 16 名

(3)一般団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
9 月	放課後等デイサービスガッツちゃん、チャイルドハート小倉アイリス	2 団体	36 名
10 月	北九州市立聴覚障害者情報センターふれあいの会	3 団体	30 名
11 月	北九州市立尾倉市民センター、北九州市世界遺産課ツアー	6 団体	107 名
12 月	南八幡少年少女会、平野遠足会、チャイルドハート小倉アイリス	3 団体	42 名
1 月	尾倉第三自治区会、特定非営利活動法人 T.M.F	2 団体	33 名
2 月	北九州市立年長者研修大学校周望学舎、八幡大谷市民センター	4 団体	56 名

計 20 団体 304 名

(4)学校団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
8 月	北九州市立大積小学校	1 団体	2 名
9 月	北九州市立木屋瀬小学校、北九州市立中島小学校	4 団体	128 名
10 月	北九州市立吉田小学校、福岡県立北九州高等学校	7 団体	666 名
11 月	北九州市立則松小学校、北九州市立ひびきの小学校、	10 団体	509 名
12 月	北九州市立菊陵中学校、篠栗町立勢門小学校	6 団体	373 名
3 月	北九州市中央中学校	1 団体	83 名

計 29 団体 1,761 名

Ⅲ. 企画展示事業

■春企画展 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関係者間で協議を重ねた結果、開催を見送った。
以降、本来計画していた企画展をそれぞれ 1 シーズンずらして実施することとした。

■夏企画展「おしゃれ・べんり！キッチングッズ展」～料理を楽しくするイノベーション～

会 期：令和 2 年 7 月 23 日(木・祝)～令和 2 年 9 月 27 日(日)

(46 開館日～空調故障により 8 月 8 日(土)～8 月 21 日(金) 臨時休館)

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

商品選定：MONOCOTO PLUS 株式会社 植田尚子 代表取締役(キッチン用品研究家)

後 援：北九州市教育委員会、北九州市 P T A 協議会、北九州商工会議所、J R 九州、西鉄バス北九州(株)

協 力：(株)アサヒ、旭化成ホームプロダクツ(株)、一菱金属(株)、(株)イデアインターナショナル、ウィズダムワールド(株)、(株)エッセンコーポレーション、(株)大石アンドアソシエイツ、オークス(株)、(株)岡部洋食器製作所、OXO、貝印(株)、カネコ総業(株)、環境大善(株)、京セラ(株)、Kuving's、(有)ケイ・アンド・エー、佐藤商事(株)、(株)サンクラフト、(株)三条特殊鋳工所、シイノ通商(株)、(株)シービージャパン、シャボン玉石けん(株)、Joseph Joseph(株)、シロカ(株)、(株)神明きっちん、スケーター(株)、(株)タニタ、(株)チェリーテラス、ツヴィリング J. A. ヘンケルスジャパン(株)、日本洋食器(株)、野田琺瑯(株)、Nobilia by 小林木工、八商商事(株)、(株)HAL ムスイ、ビタクラフトジャパン(株)、ファブ

ラボ品川, (株)マーナ, 三菱電機(株), 八木竹工業(株), 山本電気(株), 横山興業(株), (株)ヨシカワ, ル・クルーゼジャパン(株) (五十音順)

制 作: 株式会社朝日広告社

観 覧 料: 大人 300 円、小中学生 100 円、未就学児無料 *わらべの日: 中学生以下無料
(団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り)

観覧者数: 2,754 名

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初春企画展向けに準備していた展示を夏へと順延したもの。その間、長期化する自粛生活において、家庭における調理・食事時間の充実があらためて見直される風潮が進み、雑誌やSNSでも盛んに取り上げられ、むしろタイムリーなテーマとして好意的に迎え入れられる機運の中で開催出来たこと、興味を持ってご観覧頂けたことは幸いであった。

会期中は様々な感染防止策を施し、換気や衛生面に注意を払いながら入場制限も適宜行い開催したが、計画していた関連イベントの多くは見直し、ないしは実施見送りを余儀なくされた。展示自体は、食材を活かし見た目も美しくするグッズ、効率よい作業や時短につなげるグッズ、安心・安全や環境保全への配慮がなされたグッズ等、知恵と工夫がいっぱい詰まったイノベティブなキッチングッズについて、かつてない豊富な展示数を揃え、不利な状況下、満足度の高い展示が出来たと自負する。

■講演会連動展示「世界的気象学者 藤田哲也博士生誕 100 周年記念パネル展」

会 期: 令和 2 年 10 月 16 日(金)～令和 2 年 11 月 15 日(日)(開館日)

主 催: 北九州市、北九州イノベーションギャラリー

協 力: FBS, 長崎原爆資料館, 藤田哲也博士記念会

展示会場: 多目的スペース *自由観覧

観 覧 料: 無料

観覧者数: 3,798 名

北九州出身の科学者: 藤田哲也博士の生涯と研究成果を紹介するため、生誕 100 周年記念パネル展を同テーマの講演会実施日前後期間に開催した。展示パネルは、平成 26 年秋特別展として開催した際に作成したものを再利用。過去にテレビでも放映された北九州市制作映像「プライド K～藤田哲也博士」(5 分間)も合わせて公開した。博士の偉大なる業績を簡潔に解り易く伝える工夫を施した。

■秋企画展 遊びイノベーション前編「親子で楽しいファンタジー工場展」

会 期: 令和 2 年 10 月 17 日(土)～12 月 13 日(日)(50 開館日)

主 催: 北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援: 北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所

協 力: (株)レイメイ藤井、豊後高田昭和ロマン蔵、小宮裕宣、有持正信、クサボン、松井みわ、Music エデュテインメント Precious、音を楽しむ教室、近藤科学(株)、黒住初江、清水明人、0-Family 大倉、THE BOX VHQ とよたゆき、木村和寛、兵頭美絵、aoi (順不同)

制 作: 工房 自由空間

観 覧 料: 大人 300 円、小中学生 100 円、未就学児無料 *わらべの日: 中学生以下無料
(団体 30 名以上は 2 割引、障害者・年長者など各種割引有り)

観覧者数: 4,679 名

当館開館時の展示テーマとあえて同テーマとし、その続編かつ完結編として位置付け、秋の前編、冬の後編と 2 シーズンに亘る仕立てとした。前編は遊びゴコロあふれるしくみやしかけ、遊び道具を各ゾーンに分け紹介。光や音、ロボットをはじめとする動くあそびを軸に、様々な理科系の原理を応用、

あるいは発展させたしくみやしかけにクラフトやアートも絡めてファンタジックに展開し、フォトスポットには季節感も持たせた。類に漏れず、イベントは自粛せざるを得なかったが、遊び自体、あるいは遊びの中に潜むイノベーションのマインドやヒントを感じながら、家族で楽しんで頂ける展示は幅広い層に好意的に受け入れられ、コロナ禍の開催にしては比較的反響があったと自己評価する。

■冬企画展 遊びイノベーション後編「大人も楽しい♪昭和あそびの祭典」

会 期：令和3年1月9日～令和3年2月21日（38開館日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

協 力：豊後高田昭和ロマン蔵、小宮裕宣、山下満、清水明人、時計・宝石・めがねのヨシダ、吉田清春、有持正信、小倉今昔写真館、辻利之、曳野利、THE BOX VHQ とよたゆき、木村和寛、アルファード西日本(株)、工房自由空間

観 覧 料：大人300円、小中学生100円、未就学児無料 ＊わらべの日：中学生以下無料
（団体30名以上は2割引、障害者・年長者など各種割引有り）

観覧者数：2,408名

テーマは『温故知新』。大分県豊後高田の『昭和の町』の中心にあるテーマパーク「昭和ロマン蔵」館長の小宮裕宣氏の全面的な協力を得て、非公開の貴重なコレクターズアイテム、昭和の玩具を数多く展示した。先人たちの知恵と工夫がいっぱい詰まった遊び、その後のイノベーションの原点となる優れた遊びについて、あらためて見直して頂く機会とした。遊びのシーン別、時系列のゾーニングも施し、三世代にて楽しめる展示に設えた結果、スタートからコロナ禍第3波や大雪に見舞われた短期間開催ではあったものの、比較的高評価のうちに締め括ることが出来たと感じている。

IV.調査研究事業

調査研究事業は、KIGS 設立以来、下記(1)～(3)を事業目的および指針として実行してきたが、令和2年度は KIGS 最終事業年度となり、次年度に調査研究成果を積極的に公開できないため、今年度の調査研究を、①国立科学博物館との共同研究と、②KIGS 調査研究の総括(開館以来実施した調査研究報告書 55 冊の抄録集作成)に絞って実施し、北九州市立図書館等で公開・閲覧できるようにした。

-
- (1)当館の設立目的のひとつに産業技術の保存継承と人材育成がある。産業技術を理解するには、現物だけでなく個々の技術に秘められた創意工夫や技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、更には技術革新が社会に与えた影響などを後世に伝える必要がある。
 - (2)北九州を中心として技術革新の歴史を調査記録し、公開することで北九州の企業が技術革新に果たした役割についてまとめ、理解を深める。
 - (3)今進めなければ消滅する可能性のある、すなわち緊急性の高いテーマを優先することを基本方針として調査・研究を行う。
-

1 「フロッピーディスク及び駆動技術の系統化調査」(国立科学博物館との共同研究)

フロッピーディスクは 1970 年代から 1990 年代にかけてコンピュータの外部記憶装置として使用され、一大産業を築いた。アメリカの IBM が 8 インチフロッピーディスクを大型コンピュータに導入し、その後、5.25 インチ、3.5 インチとサイズダウンしながらパーソナルコンピュータ等へ適用範囲を広げていった。3.5 インチフロッピーディスクはソニーが開発し 1980 年に発表。ワープロやコンピュータ

の外部記憶装置として採用され、世界標準となった。

本報告書では、8 インチ、5.25 インチ、そして 3.5 インチのフロッピーディスク及びその駆動装置の技術と市場を俯瞰し、フロッピーディスクの開発・製造の経験が無かったソニーが 3.5 インチフロッピーディスクの企画、開発、製品化を行い、世界市場を席巻した経過を詳細に記述している。なお、(株)安川電機の子会社 YE・DATA がフロッピーディスクの駆動装置を開発・製品化していたことを付記しておく。

調査研究期間：令和 2 年 4 月～令和 3 年 2 月

研究体制：国立科学博物館との共同研究

2 「KIGS 調査研究の総括 調査研究報告書抄録集」の作成・発行

北九州市の歴史は産業技術発展の歴史を抜きには語れない。KIGS で実施してきた調査研究は、この北九州における産業技術を過去から掘り起こし、今を明らかにし、未来の発展へとつなぐ役割を果たすものである。記録された産業技術発展の歴史からは、先人たちの知恵と努力を読み取ることができる。現在の私たちはこの知恵と努力の成果を学び、未来に向けて新しい知恵を加えて、北九州の発展に寄与することが望まれている。

この抄録集は、開館以来実施されてきた 54 件^(注)(報告書数 55 冊)の調査研究の総括として各報告書の簡単な抄録を作成し、一覧できるようにしたものである。54 件の調査研究は、主に産業技術分野を対象にしており、そのテーマ分野の専門家がそれぞれ 1 年前後の歳月をかけて実施したもので、産業技術史として貴重な資料となり得るものばかりである。

調査研究のテーマは大きく次の 3 つに分類できる。

(1) 北九州市産業技術史の調査研究

北九州地域の企業、大学等が生み出した特徴的技術、製品の発展の歴史を調査研究

(2) 技能伝承のための調査研究

北九州マイスターなどの優れた技能を後世に伝承するために実施した調査研究

(3) 国立科学博物館と共同で実施した技術の系統化調査研究

日本の産業技術発達史上重要な技術について系統的に調査分析するとともに、その技術と社会・文化との相互関係についても分析した調査研究。

北九州市立図書館では全ての調査研究報告書を所蔵しており、本抄録集の中に調査研究報告書と所蔵図書館対応表を掲載しているので、関心のある調査研究については当該調査研究報告書を閲覧することができる。

(注)令和 2 年度の国立科学博物館との共同研究は抄録集執筆時点で未完であったため含めていない。

調査研究期間：令和 2 年 4 月～令和 2 年 10 月

研究体制：当館調査研究担当者が執筆

V. 図書・映像等の収集、制作、公開事業

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図った。

1 図書・資料の収集

新規発行の科学・技術書籍、子供向け書籍、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し、多分野に亘って幅広く購入した。また、種類別のコーナーを区分して分かりやすく一般へ公開した。

＜令和2年度購入実績＞ 842冊（書籍557冊、雑誌285冊）

＜令和2年度寄贈受入実績＞ 78冊（社内報34冊、報告書等35冊、一般書等9冊）

2 ライブラリーの運営

来館者に対し、公平で良質なライブラリーサービスを提供しながら、利用者の研究や学習の支援に取り組んだ。

◆サービス向上に取り組んだ内容

- ホームページに各月の新着本情報を掲載するとともに、メルマガ会員に向けて KIGS Letter を月2回程度配信するサービスを引き続き実施し、利用者の興味を引き、利用頻度向上につなげた。
- 昨年度の統計結果をもとに利用頻度の高い本を増やすとともに、科学・技術に関する一般向け書籍、子供向け科学図鑑、科学漫画、一般啓発本、教養書等、利用者毎に新たな人気分野の書籍を多数揃えた。
- 昨年度に引き続き、書籍の利用頻度、利用対象や内容を考慮し、探しやすいように配架変更を行った。

◆利用者の声

- リピーターからは、一般科学読物、子供向け書籍等の良い書籍が揃っており、読書意欲をそそられる。もっと多くの市民に PR したらどうかという意見と、新着本を楽しみにしているとの期待を寄せられている。

《ライブラリー利用者数》年間利用者数：3,006人、月平均：273人[4月を除く]

※前年度年間利用者数：6,174人(月平均561人[3月を除く])

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	—	110	129	323	219	314	414	403	247	249	360	238	3,006

《ライブラリー会員数》年間登録者数：98名 ※前年度236名

月	前年繰越	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	退会	合計
人数	1,880	—	8	3	9	6	10	20	12	8	9	13	0	2	1,976

《貸出利用回数》年間貸出回数：1,394回 ※前年度貸出回数：1,829回

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
回数	—	115	95	178	99	158	157	147	133	121	152	39	1,394

《貸出利用冊数》年間貸出冊数：年間5,267冊(1回平均3.8冊)

※前年度貸出冊数：年間6,331冊(1回平均3.4冊)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
冊数	—	417	376	695	372	565	571	583	490	501	538	159	5,267

3 映像の収集・映像の公開

(1)映像の収集

市販品映像(1 作品) DVD

映像タイトル	映像分野	企画会社名	時間 (分)	制作年
デザインあ 3	デザイン	NHKエデュケーショナル	108	2020

(2)映像の公開

令和元年度に制作した映像「わたしの北九州」(約 31 分)を 10 月に開催した KIGS 市民セミナーで公開した(当初 4 月に公開する予定であったがコロナ禍のため 10 月に延期)。映像公開と合わせて、映像の原作となった調査研究「北九州における近現代建築の地域資源としての見える化」の報告会も同時に開催した。また、映像は YouTube にアップし一般公開しているとともに、北九州市観光課や都市景観課でも広報、教育等に活用していただいている。その他の保有映像は、当館への訪問団体向けに個別に選択して上映を積極的に実施した。